

訪問マッサージ 三ツ星治療院

TEL : 070-5020-6164

メール : m3204@y-mobile.ne.jp

## いきいき！ニュースレター 8月号

### 「奇跡の脳」を読んで

「奇跡の脳」は、神経解剖学者のジル・ボルト・テイラーが、若くして脳出血に見舞われた体験、発見などを描いた本です。

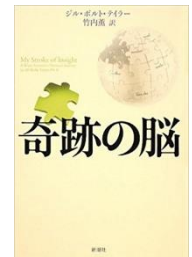
ラジオの番組で紹介されたことがきっかけで読み始めましたが、内容の濃い名著でしたのでご紹介します。

#### 脳出血が起きた際の出来事が克明に

ジルさんは朝激しい痛みで目を覚ましました。「こんな激しい痛みは初めて！」と感じているのに、なぜか血行を良くして治そうと運動を始めてしまいます。

しばらくして運動が適切ではないと気づきますが、浴室でシャワーを浴びはじめます。

なぜ異変を感じているのに、すぐに病院に行かないの？と思いますが、脳出血によって正常な思考ができなくなっていたのかもしれない。



かなり時間が経って、助けを呼ぶことを思いつきますが、その時には脳出血で言語と数字が使えなくなっていました。幸い彼女は自分のできることをやりとげ、助けを呼ぶことに成功しましたが、一人である時に異変が起きた時には、適切な行動をすることが困難なのだ痛感しました。

#### 必要としていること・やってはいけないこと

「合衆国の大統領は誰？」医師がジルさんの状態を確認するために使われた質問です。

ジルさんが言うには、言葉は繋がり悪い携帯電話で、相手の話に注意を払う努力に似ているそうです。

「だいとうりょう、って何だろう」・・・「がっしゅうこく、って何だろう」、時間をかけて何とか理解にこぎつきましたが、質問は「それは誰？」だったため、答えにたどり着けなかったそうです。

複雑なイメージの組み合わせは、時間も体力も使うため、とても疲れるとのこと。

エネルギーについては、とても興味深い記述がありました。

「人にはエネルギーを与える人と吸い取る人がいて、吸い取る人と接すると非常に疲れる。細心の注意を払って自分のエネルギーは自分で守らなければならない。」

「エネルギーを与える人は、気持ちを理解してくれ、目を合わせて静かに話してくれる。」

「前向きなエネルギーを見せてくれることが大切。極端に神経質で、心配しているか怒ったように見える人たちは、治療には逆効果なのです。」

上記、抜粋するだけでも、求められているものがよく分かる気がします。

#### 最も必要だった40のこと

附録Bとして載っている「最も必要だった40のこと」は、患者さんと接する時の必要不可欠な項目です。

例えば、

1. わたしはバカなのではありません。傷を負っているのです。どうかわたしを軽んじないで。

23. 脳は常に学び続ける事ができると、固く信じてください。

28. 小さな成功を全て称えてください。それがわたしを勇気づけてくれます。

など、40項目どれをとっても、はっとさせられる心からの声です。

実際に自分に経験がないことでも、患者さんをつながろうとすることで、想いを感じとることができます。寄り添い、信じる事が大切なのだと感じました。

また、この本は後半は雰囲気を変え、「右脳マインドの勧め」というような脳の神秘的な世界が描かれています。それも脳の奥深さを感じて面白かったです。ご興味のある方はぜひ読まれることをおすすめします。

## 目の見えない患者さん、難聴の患者さん

コミュニケーションは非常に重要で、信頼され良好な関係を築くことで、マッサージの効き目にも影響を及ぼします。

コミュニケーションには、言葉もちろんですが、表情や声のトーン・ジェスチャーや態度など、非言語コミュニケーションも大きな役割を果たします。

しかし病状によっては、同じやり方では伝わらなかつたり、誤解を招いたりすることもあります。

### 糖尿病が進行し、目の見えない患者さん

以前担当していた方は、糖尿病網膜症により、だんだんと視力が衰えていったそうです。

見えなくなつてからは生活を工夫されていて、普段良く使うものの指定の位置を決めたりと、出来るだけ自活できるようにされていました。

マッサージを行う時に気を付けていたのは、なにか行う時には必ず声を掛けることです。

「始めますね」から、部位が変わるときに「次は左足にいきますね」、姿勢を変える時「膝を曲げてください」など変化するたびに声掛けをします。

マッサージの手順が変わると不安になるかもしれないので、毎回ほぼ同じ手順で行っていました。

声掛けが多いと「流れはわかっているよ、しつこいな」と思われるかもしれないのですが、少しでも不安要素をなくすためにあえて頻繁に声かけを行いました。

実は、この患者さんに申し訳ない事をしてしまったことがあります。

昔会社に所属していたころ、新人と一緒にきて患者さんへの施術を見学することがありました。

見学は、患者さんに事前にご了承いただいた場合のみです。

この患者さんにも了承いただいて、何人か見学者を同行させたことがあります。

その日の見学者は施術はしっかりしていて誠実ですが、少し言葉遣いにつけんどんなところがありました。

患者さんと話したのは二言三言だったと思います。

しかし、次の施術時に「次からは見学はやめてほしい」と言われました。

私が見学者にきちんと、「声に気を配って下さい」、と説明するべきでした。

目が見えない方が声を感じるアンテナは非常に鋭いものだと思います。

「声の大きさ、にこやかで誠実な受け答え」など、気を配ってコミュニケーションを図る大切さを学びました。

### 加齢で難聴になった患者さん

難聴の強い方には、筆談でコミュニケーションをとることがあります。

マッサージ中に筆談を頻繁にすることはできないので、始める前に聞きたいことや伝えたいことをすべて筆談します。

ただ、マッサージ中でも体勢を変える時などは、その都度書いてお伝えしています。

体勢を変える際の中断は、流れを断ち切らず自然にできます。

急に体勢を変えられるのは身体の準備もなく、不安も大きくなるので、安心してマッサージを受けることができるよう、気を配っています。



意思の疎通でいえば、表情をよくみていらっしゃるように感じます。コミュニケーションの間合いを図っているのだと思います。

筆談するときも、文字ばかりに視線を落とさず、お互いの顔をみながら、にこやかな表情でいることが大切だと思います。

筆談には時間もかかります。しかし急いで書いたり、せかしたりということのないよう、あらかじめ時間に余裕をもたせたスケジュールにしています。

また、難聴の方はご本人が電話が使えないので、次の予定日の確認は必ず行っています。

★三ツ星治療院です★ お気軽にご相談ください。メールでのご連絡も大歓迎です。

TEL: 070-5020-6164 メール: [m3204@y-mobile.ne.jp](mailto:m3204@y-mobile.ne.jp)